

2026 年秋の年会：核データ部会企画セッション提案
(春の学会への提出案)

運営小委員会 企画担当
大津秀暁
2026/3/6

案 1：理研 TRIP 事業「UC 元素変換」の進捗と核データへの展開

【趣旨】 理化学研究所の RIBF を用いた「TRIP 事業 (UC 元素変換)」では、相互作用断面積や核内密度分布、線分光など、広範な核種の網羅的測定が進められている。2025 年度の進捗報告を踏まえ、2026 年秋には解析が進んだ最新知見を共有する。本事業の網羅的データは核データ評価との親和性が極めて高く、原子力および応用分野への波及効果を議論する場とする。

【構成案 (敬称略)】

1. 事業紹介と展望：木村 真明、または馬場 秀忠 (理研)
2. 網羅的測定の最前線：西村 太樹 (都市大)、または田中 聖臣 (九大)
3. 核データ評価への期待と連携：調整中 (核データ(評価者)側)

案 2：粒子輸送計算における核データと理論モデルの融合 —— イベントジェネレータ実装の最前線

【趣旨】 PHITS や Geant4 等の輸送計算コードは多分野で不可欠だが、「理論モデル」と「核データライブラリ」の境界や統合には課題が残る。近年、高エネルギー領域や高精度化 (BNCT、宇宙開発等) への要求から、双方それぞれでの実装と更新およびイベントジェネレータとして利用展開、精度向上等が急務となっている。本企画セッションでは、開発の実情、物理モデルとライブラリ、およびユーザーニーズとの整合について議論する。

【構成案 (敬称略)】

1. イベントジェネレータの実装戦略 (仮)：調整中
2. PHITS における理論モデルの実装と更新：岩瀬 広 (KEK)、または堀内 渉 (公立大)
3. Geant4 における核データ処理の現状 (G4NDL 等)：調整中